

# 60周年事業計画案

一人と動物と環境の絆をつくる動物園・入園者 100 万人を目指してー

## ★ 基本的な考え方

平成 20 年度に策定した円山動物園基本計画では、開園 60 周年を迎える平成 23 年度は「集中取組期間の最終年」と位置付けられている。このことから、60 周年事業を「集中取組期間の総括」と「次のステップへの基礎固め」の事業と位置付け、「存在意義を高める」、「特徴づけを際立たせる」、「集客施設としての実力を高める」それぞれの視点の事業を実施し、円山動物園が次に目指す方向性へと繋げていく。

## 円山動物園の存在意義を高める事業

### 都市における生物多様性と生態系の保全に係る調査事業

大学や地域市民との連携により、都市の生物多様性を実感できる観察会や生物調査などの体験プログラムを実施し、結果についての情報発信を、動物園から行っていく。

### 種の保存に向けた繁殖機能の充実

動物に関する国際的なデータバンク「国際種情報システム機構 (ISIS)」に新たに加入するなどにより、海外動物園との交流推進や動物交換を進め、積極的に種の保存機能を果たしていく。

### 60周年記念講演・展示（環境テーマ）

環境教育(生物多様性・ホッキョクグマ・ゾウ等)に関する連続講演、円山動物園の歴史を伝える事業(展示・映像など)を実施する。獣舎等における展示説明の充実により、環境への関心を高める。

### 平成23年4月「新は虫類・両生類館」のオープン

希少動物（絶滅危惧種）の展示・繁殖を通じて、生物多様性の重要性を表現し、動物たちの生息域の環境問題を考えるきっかけを提供するという、「新は虫類・両生類館」の意義を伝え、また広く関心を高めるための記念事業を開催する。

オープン記念講演「(仮) 爬虫類・両生類と生物多様性」・は虫類・両生類を知る「(仮) アート展」

### 日本動物園水族館協会全国会議の開催

全国の飼育技術者が参加する「第 59 回動物園技術者研究会」を開催する(平成 23 年秋予定)。

## 円山動物園を特徴づけ際立たせる事業

### 動物園の森・緑の観察会の実施、さけ科学館との連携事業の実施

円山地域を取り巻く自然環境や水棲生物等を題材に、広く生物多様性確保の基地を実現する。

### 円山動物園が取り組む各種事業を説明するパンフレット等の作成

環境・生物多様性・絶滅危惧種への取組及びイベントや動物展示等の事業説明書の整備

## 円山エリアの中核施設としての発信と研究

動物園に至る交通アクセス課題の改善を含め、関係機関と連携し円山公園エリア全体の魅力向上のため研究を継続するとともに情報の発信に努める。

## 動物の魅力深く伝える取組み及び教育普及の充実強化

みんなのドキドキ体験メニューの充実・入園者閲覧用図書の新規購入及び更新  
アニマルファミリー制度の拡充

持続可能で支援しやすい制度へ移行し、合せて対象動物の拡充、ファミリーの増大を図る。

## 集客施設としての実力を高める事業

### おもてなし事業の実施

来場者への魅力アップとして「おもてなし」のサービスの充実し、より客層を広げ、リピート率を上げ、集客を確保する。

- ① 園内案内表示、パンフレット、園内放送等の充実（外国語対応も含む）
- ② 季節感のある園内装飾等の実施。
- ③ 「春まつり」、「かがやく夏の動物園」、「命の感謝祭」など季節ごとのイベントの充実。
- ④ 冬の動物園を広く知ってもらうために動物園スノーフェスティバルの強化（平成 23 年 2 月）

### サポート制度の充実

現在の「動物園ガイドボランティア」を核とし、市民等が各種業務をサポートする制度を構築する。

## 連携事業の推進

### 連携事業の推進

企業・団体等との連携に基づく各種事業を積極的に実施する。

